

比喩的語彙と外来語

坂入啓子

はじめに

ページ数の限られた小型辞書において、見出し語の採否は編著者が大いに苦慮されるところであろうことは想像に難くないし、数種類の辞書に採録された見出し語を比較するとき、そこにかかなりの差異が見られるのも事実である。山田俊雄氏は日本語の辞書の現況を「日本語即国語、国語即日本語という観念にもとづいて、教育に役立つ辞書、多人数の購買者を期待する層を目標にした中等高等学校の学習のための辞書に、辞書制作の動機が存する」（注1）とし更に「言語研究の成果の集大成としての、記述的な辞書と、言語実践のための規範を内容とする辞書とは別の存在であり、同列には論じられないし、また論じてはならないのである」（注2）と書いておられ、それに共感するものであるが、しかし、複数の言語研究者の眼をもって、数多くの資料の中から厳選されて採録された語彙は、現在及びごく近い過去における日本国内の言語現象の様相を示すものとして、有効な資料にはなり得ると考える。

そのような観点において、先にかかげられた各種の国語辞典の見出し語の中から、女性そのものをさすと語釈されている語（例えば「……な女」「……をする婦人」「……である女性」など）を抜き出し、二つの面から女性を表わす語についての考察を試みたい。尚、先に述べたように辞書によって採録語彙は異なるが、ここでは一種以上の辞書に採られた見出し語はすべて平等の調査対象とする。

1. 比喩的語彙について

女性を表わす語を一見すると、身分・状態・性格などを表わす語にも直接的表現を避けた言い方が目につく。修辞学上の比喩に似た表現である。比喩表現は、その形式によって直喩・隠喩・諷諭以下様々な分類がなされ確立されていないが、中村明氏は、比喩を「表現主体が、表現対象を、それを過不足なく直接にさし示す言語形式を使わないで、その代わりに、言語的な意味では他の事物・事象に対応する言語形式を提示し、その言語的環境との違和感や、それが現れることの文脈上の意外性などで、受容主体の想像力を刺激して、両者の共通点を推測させることによって、間接的に伝える表現技巧である」（注3）と定義しておられる。ここではこの文章の中の「言語形式」を「語」に単純に置き換えて、比喩的語彙の定義とする。即ち、従来からある比喩の分類概念にあてはまるか否かにとらわれず、間接性に基をおいて対象語を選定する。金田一春彦氏は現在の日本語の語彙を

西洋語（主として近世以降ヨーロッパから輸入されたことばで、ふつうカタカナで書かれるもの）

字音語（上代中国文化輸入以後、直接・間接に中国から輸入されたことば、またはそれをまねて日本で作ったことばで、ふつう漢字で書かれるもの）

ヤマトコトバ（それ以前からあった日本語、またはそれをもとにしてできた語彙）
その複合語・転成語

に分類しておられる（注4）が、複合語等はどこに比重がかかっているかによって、それ以外の三種のいずれかに統合させると、女性を表わす見出し語の数は次のようになる。

西洋語	67
字音語	216
ヤマトコトバ	214

比喩的語彙は、この三種のどの部類にも見られるものであるが、西洋語は次の「2. 外来語について」の章で総合して扱う。又、字音語には、例えば「明眸皓齒」などのように中国人の意識がそのまま伝来したものと、日本人が漢字を使用して日本語として作り上げたものがいりまじっているので省き、ここではヤマトコトバ（字音語と結合したものも含む）だけを対象とした。

ヤマトコトバの中の比喩的語彙は全部で79語、約36.8%をしめる。これらの語彙を分類しながら、同様にして選び出した男性をあらわす語と比較し考えてみたいと思う。

(A) 「まるで……のような」ともいうべき、たとえる対象物を明確に持った語。

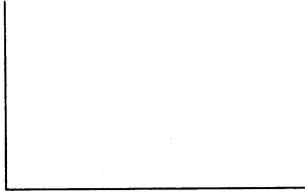
表A-1 (女性)

1. あだざくら
2. 生き人形
3. うぐいす
4. うぐいす芸者
5. うば桜
6. 石女
7. うめほしばばあ
8. おかめ
9. お多福
10. 鬼婆
11. 看板娘
12. 小町
13. 小町娘
14. すべた

表A-2 (男性)

1. 青二才
2. 生き仏
3. からす
4. ずく入
5. たこにゅうどう
6. たこぼうず
7. たぬきおやじ
8. たぬきじじい
9. 出歯亀
10. ひひ
11. ひも
12. ひょっとこ
13. 福助
14. ふるたぬき

- | |
|-------------|
| 15. たかねの花 |
| 16. ともえ板額 |
| 17. ねんね |
| 18. 花（職場の～） |
| 19. 大和撫子 |



女性をあらわす語彙には、声・容姿など美しいものにたとえたものが多いが、男性をあらわす語にはそのような例はなく、「生き仏」だけがより高いレベルのものにとえられている語である。ここで用いた「レベル」という語についてふれると、ここにあげたような直喩的な語彙は、たとえる事物は、共通性を持ちながらより誇張されたもので示されている。誇張の方向が好意的方向であるものをレベルが高いとしたわけである。女性をあらわす語のもつイメージを、プラス・マイナス・0にわけた調査によると、「小町」「大和撫子」などの語も、調査対象者の男女とも数パーセントがマイナスイメージをもっているという（注5）。が、これは遠藤織枝氏も書かれている通り、「ことば本来の意味でなくうけとめ方においての評価」であって、ことば本来の意味においては、各語のレベルの高低は、かなり普遍性があったと考える。

表A-1「石女」は、むしろ直接的な語「うまづめ」に「石女」の文字をあてて間接性をもたせた特殊な例である。差別用語とされるものの一つに「穢多」ということばがあるが、田中克彦氏は「大辞典」の語釈を引用して、『『エタ』はがんらい犬飼、鳥飼、鷹司のたぐいの動物にかかわりのある職業名称と特にかわったところはないのであるが、エトリがエタ（あるいはエッタ）に音変化した時点で、だれかカンジ使いの名人がいて、まことしやかに穢多などと字をあてると同時に意味もつけ加え（私が漢字が差別文字だと言っている理由がここにもある）、そのみならず……中略……エッタという民衆の日常形に知識階級が勝手な解釈と共に字を加えることによって、民衆のリンチを知的に強化、定着させたことがあったということだ。」（注6）と書いておられる。エタの語源について、ここで考察することは控えたいが、素朴、率直な「うまづめ」の語が「石女」という文字を得て更にレベルを低められたとはいえないだろうか。

(B) 場所を示すことばで、そこに控える人物をあらわす語。

表B-1 (女性)

- | |
|-----------|
| 1. おいさま |
| 2. お下 |
| 3. おつぎ |
| 4. みやすどころ |

表B-2 (男性)

- | |
|-------------|
| 1. 家の子 |
| 2. お寺さん(さま) |
| 3. かげま |
| 4. 宅 |
| 5. 二枚目 |

古く貴人などに対しては、敬意を表わすために直接さし示すことを避けて居所をもって表現することがあったが、その流れといえよう。が、厳密にいうと、表B-2の各語の中で表B-1に対応し得るものは「2.お寺さん」のみかもしれない。1・3・4・5は語源を居所に求めることができるということである。

(C) 身体の一部をもって、全体である人物を示す語。

表C-1 (女 性)

1. 男腹
2. 女腹
3. 白歯
4. たば

表C-2 (男 性)

1. でこ坊

男性を表わす語は「でこ坊」一語であり、これも子供ということになると、女性を表わす語だけであるといえよう。「男腹」「女腹」に対になっているが、「白歯」が未婚の女性をさすのに対して、既婚の女性を「おはぐろ」とは言っていない。「おはぐろ」は歯を黒く染める意に用いられるのである。

(D) 衣服、外見をもって人物を表わす語。

表D (女 性)

1. きれいどころ
2. 緑のおばさん

女性の場合のみにその例があるのだが、二例とも身分を示している。金田一春彦氏も指摘される通り服装を詳細に叙述して人物を浮かびあがらせるのは日本文学の古い伝統である(注7)が、語として定着することは少なかったようだ。

(E) より誇張された動作語でその属性をもつ人物を表わす語。

表E-1 (女 性)

1. 売れ残り
2. おちゃっぴい
3. お跳ね
4. おひきずり
5. 出戻り
6. とんでる女
7. 箱入り娘
8. はねあがり

表E-2 (男 性)

1. でれ助
2. ならず者
3. のら息子
4. はなたらし
5. 秘蔵っ子

- | |
|----------|
| 9. はねかえり |
| 10. 見ず転 |

より誇張して言うという意味で(A)の動作・状態版というべきものである。従って動詞連用形の体言化したものが多い。たゞ、誇張されてレベルがより高くなるというよりは低くなるもの（「はねかえり」など）が多く、又、焦点をやゝぼかした語（「見ず転」）も含まれているのが(A)と異るところである。

(F) 行動の一部あるいは手にする品物によって動作の主体を表わす語。

表F-1 (女性)

- | |
|---------------|
| 1. 糸姫 |
| 2. えんやこら |
| 3. おかま (女中の意) |
| 4. お酌 |
| 5. お乳の人 |
| 6. おちゃこ |
| 7. お手伝いさん |
| 8. お針 |
| 9. 下地っ子 |
| 10. 辻君 |
| 11. 留め女 |
| 12. 鳥追い |
| 13. 鍋 |
| 14. 猫 |
| 15. はやりっ児 |
| 16. 左づま |
| 17. 待女郎 |
| 18. 闇の女 |

表F-2 (男性)

- | |
|-------------------|
| 1. 作男 |
| 2. 太鼓持ち |
| 3. 出入り |
| 4. 留め男 |
| 5. 生臭坊主 |
| 6. のだいこ |
| 7. はこや |
| 8. 鉢たたき |
| 9. 挽き子 |
| 10. ふんどし担ぎ (したっば) |
| 11. 部屋住み |
| 12. みそすり |
| 13. みそすり坊主 |

容姿・性格を示さず、身分・職業を示す語ばかりであるのは当然であるが、その身分・職業が社会通念において高いものはなく、低めのものばかりであるのが特徴である。

(G) 異性との関係を表する語。

表G-1 (女性)

- | |
|---------|
| 1. お手付き |
|---------|

表G-2 (男性)

- | |
|--------|
| 1. 色事師 |
|--------|

2. おもい者
3. 抱い
4. 囲い者
5. きずもの
6. そばめ
7. 手入らず
8. てかけ
9. なぐさみもの
10. 一夜妻
11. ひもつき
12. めかけ

2. おおかみ
3. 送り狼
4. 女殺し
5. つばめ
6. ぬれ事師
7. 女敵
8. 若いつばめ
9. 出歯亀
10. でれ助
11. ひも

表G-2の9以降は他の分類グループにも入っているものである。女性側の12語は残らず動作主体が男性であることを特徴とする。

(H) その他

表H-1 (女性)

1. 赤い信女
2. くろうと
3. 小指
4. 地の女
5. しろうと
6. 其者
7. 上玉
8. たま
9. だるま
10. 女郎

表H-2 (男性)

1. おかま
2. おやま
3. やくざ

表H-1の1～6は比喩的語彙であり、7～10は俗語・隠語とされているものである。「小指」は、小指を立てる動作が妻・愛人などを示すことからできたという特異な語。「女郎」も「野郎」に対して造られたという。男性側の三語は、

やくざ (ばくちの8・9・3の目から)

おやま (操り人形の人形遣いの名から)

おかま (婉曲な言い方)

という説明を得ているもので、いずれも(A)～(G)に分類し得ないので、ここにまとめた。

(I) すもう用語

表 I

1. 付き人	7. 平幕
2. 土つかず	8. ふんどし担ぎ
3. 露払い	9. 幕内
4. でかた	10. 幕下
5. 頭取	11. 幕じり
6. 取りの	12. 呼び出し奴

言うまでもなく男性を表わすものばかりである。(A)~(G)に分類できるはずのものであるが、男女の比較の資料にはなり得ないので別扱いをした。しかし特殊な位相語のなかに比喩的語彙がこれだけあるということには注目したい。

2. 外来語について

前章で西洋語と称したものである。一般的な用い方にもとづき、漢語・アイヌ語・梵語などは除いて、ヨーロッパ・アメリカ・東南アジアなどから入った、いわゆるカタカナ書きの語を対象とする。これらの外国語がなぜ翻訳されずに外来語として定着したかを考えるために、次のようなグループに分類してみた。男性を表わす語も比較のために付記してゆく。

(J) 実体と共に輸入されたと考えられる語。

表J-1 (女性)

1. ウェートレス
2. ガールスカウト
3. カバーガール
4. コールガール
5. コンパニオン
6. シスター
7. ジャペロン
8. スチュワーデス
9. ストリッパー
10. タイピスト
11. ダンサー
12. トップレディー
13. バスガイド

表J-2 (男性)

1. ウェーター
2. テナー
3. ナイト
4. パーテン (ダー)
5. ビショップ
6. ボーイ (給仕)
7. ボクサー
8. スキップ

表L-1 (女性)

1. アマゾン
2. シンデレラ
3. ナイチンゲール
4. ニンフ
5. パンパイア
6. パンプ
7. マドンナ

表L-2 (男性)

1. アパッシュ
2. ドンファン

女性側の7語のうち、訳語をもたないのは「シンデレラ」である。意味・使い方がずれて来たということは、前章で述べた比喩的語彙に近いものになっているということである。

(M) 母国における意味とずれを生じている語。

表M-1 (女性)

1. パンパン	→ 街頭で客をひく売春婦。街娼
2. プリマドンナ	→ 花形の女性
3. マダム	→ 酒場などの女主人
4. ママ	→ 酒場の女将

表M-2 (男性)

1. ホスト	→ ホストクラブの接待係
--------	--------------

(N) 和製外国語及びやまとことばと外国語の混種語。

表N-1 (女性)

1. オーエル (OL)
2. オージー (OG)
3. オフィスレディー
4. オールドミス
5. オンリー
6. ステッキガール
7. デパートガール
8. ハイミス
9. ビージー (BG)

表N-2 (男性)

1. カボチャ野郎
2. 金ボタン
3. サイノロジー
4. シスターボーイ
5. ドル箱
6. ロマンズグレー

- | | |
|-------------|--|
| 10. ビジネスガール | |
| 11. ラジャメン | |
| 12. わんさガール | |

混種語が女性側に一語、男性側に三語あるが、すべて前章の比喩的語彙に通じ、「わんさガール(B)」「カボチャ野郎(A)」「金ボタン(D)」「ドル箱(A)」と分類されるのも興味深い。「オフィスレディ」は週刊誌が読者投票の結果選定した(注8)というが、「老嬢」→「オールドミス」→「ハイミス」と同様、よりよいイメージを求めて新しい語を造り出してゆく例と見られる。

(O) その他

表0-1 (女性)

- | |
|-------------|
| 1. オフィスガール |
| 2. ガール |
| 3. ガールフレンド |
| 4. クィーン |
| 5. グラマー |
| 6. コケット |
| 7. ストリートガール |
| 8. ハウスキーパー |
| 9. バージン |
| 10. フラッパー |
| 11. プリンス |
| 12. マドモアゼル |
| 13. メッチェン |
| 14. メード |
| 15. レディ |

表0-2 (男性)

- | |
|-------------|
| 1. エスコート |
| 2. ゲイボーイ |
| 3. シゴロ |
| 4. セニヨール |
| 5. セントルマン |
| 6. タフガイ |
| 7. ダンディー |
| 8. ナイト |
| 9. パイロット |
| 10. バチェラー |
| 11. パトロン |
| 12. ハンサム |
| 13. ビジネスマン |
| 14. ヒーロー |
| 15. プレーボーイ |
| 16. ブルーカラー |
| 17. フェミニスト |
| 18. フレッシュマン |
| 19. ボーイフレンド |
| 20. ボス |
| 21. ホスト |
| 22. ボースン |
| 23. ボーター |
| 24. マスター |

- | | |
|--|----------------|
| | 25. マダムキラー |
| | 26. マドロス |
| | 27. ムッシュー |
| | 28. メッセンジャーボーイ |

ほとんどが一語あるいは二語からなる訳語をもって、外国語を用いる必然性もないようだが、「メイド」は駐留軍や外人家庭、ホテルで働く女性であって、「女中さん」「お手伝いさん」とは違った意味をもっているし、「肉体美人」はともかく、「太った女」のことを「グラマー」といえば、言う側も言われる側も抵抗がない。「処女」というのは気がひけて「バージン」と言うなどは日常経験するところであろう。

まとめ

比喩的語彙は女性を表わす語が79語、男性を表わす語が49語、すもう関係12語になる。このような語彙を使用する意図は何であろうか。話者の意識をさぐることはきわめて困難な仕事と思われるが、ここでもう一度比喩的語彙のレベルについて言及したい。(A)……(I)の分類内容を見て、ほゞ言えることは、その語を使用することによって、

- ① レベルを高めるもの
 - (B) 場所を示す語
 - (D) 外見・衣服をあらわす語
- ② レベルを低めているもの
 - (E) 誇張された動作語
- ③ ①と②の入り混っているもの
 - (A) たとえる対象物のある語
- ④ レベルに無関係に直接表現をさせているもの
 - (C) 身体の一部をあらわす語
 - (F) 行動の一部や品物
 - (G) 異性との関係をあらわす語
 - (H) その他

この④に属する語は、いわば隠語的性格をもつものである。資料数が多くないので、男女の数を比較して女性の場合の特質を論ずることは避けたいが、この隠語というものは、その語をもって指し示される側にとって喜ばしい語感のあるものは少ない。話者の側にしても、敬意・好意をこめた語でないことは明確である。調査対象語彙の中には、おそらく男性しか使わないであろうと思うものがある。事実、自分自身、これまでの生涯でたゞの一度も口にしたことがない（よく聞き慣れた語でありながら）と断言できる語もある。字音語の中の比喩的語彙の調査と共に、語ごとの使用者の位相なども考えて

みたい課題である。

隠語的性格は外来語にもあるのではないかとの見方から二番めの調査に入ったわけだが、分類してみると、

- (L) 固有名詞から派生した語
- (M) 母国での意味とずれた意味になっている語
- (O) その他 (の一部)

にその性格が見られただけであった。外来語の氾濫は、世人の多く歎くところであるが、外来語と訳語の間にイメージの差異の感じられるものの場合、使用者にとっては両者の共存が便宜的であることは事実多い。(L)・(M)・(O)に属する語も、訳語と対照すると、外来語に、より明るい、開放的な語感がみとめられる。これらを隠語というには明るすぎるといえるのが実感である。

- | | | |
|----|--------------|----------|
| 注1 | 「日本語と辞書」 | 中央公論社 |
| 注2 | 同上 | |
| 注3 | 「比喻表現辞典」 | 角川書店 |
| 注4 | 「日本語」 | 岩波書店 |
| 注5 | 「ことば」1号 | 現代日本語研究会 |
| 注6 | 「ことばの差別」 | 農山漁村文化協会 |
| 注7 | 「日本人の言語表現」 | 講談社 |
| 注8 | 「コンサイス外来語辞典」 | 三省堂 |